硬膜外腔に発生した結核腫の一例

佐賀県立病院整形外科

福島一彦・奥江章
高妻雅和・石崎知樹
松口信行・白沢建蔵
松永英裕

A Case of Intraspinal Extradural Tuberculoma

by

K. Fukushima, A. Okue, M. Kouzuma, T. Ishizaki,
K. Shirasawa and E. Matsunaga

Orthopaedics Surgery, Saga Prefectural Hospital

We have experienced an intraspinal extradural tuberculoma in a 51-year-old man who had pain in low back and lower limbs. These symptoms disappeared after removal of the tumor by laminectomy. This tumor was pathologically examined to be a tuberculoma.

はじめに

今日、結核性疾患は減少したとは言え、今なお珍しい疾患ではない。当科においては、過去6年間に18例を見たが、このうち10例は胸部レ線所見に異常を認めず、結核菌を証明できたのは、わずかに2例であった。今回我々は、近年では極めて稀な硬膜外腔に発生した結核腫の一例を経験したので、ここに報告する。

症 例

症例：51才、男性、漁業

主訴：腰痛および両下肢痛

家族歴：父母、兄弟、親族に結核の既往なし

既往歴：特記すべきことなし

現病歴：昭和57年1月より腰痛を覚え、同年4月に右大腿部および左下腿部痛も加わったため、近医にて骨盤牽引をしてもらっても軽快せず、同年5月当科に入院する。

入院時所見：全身所見に異常なく、局所所見で、L₃, L₄, L₅の手掌圧痛陽性、右臀部圧痛点陽性、Lasagueは右70°にて陽性、下肢腱反射は左右アキレ

ス腱反射および左膝蓋腱反射が消失し、両足部の知覚異常を認めたが、筋力低下と膀胱直腸障害は認めなかった。検査所見：血沈は1時間値6mm；2時間値13mmと正常であり、血液、尿所見も正常であった。胸写でも、結核を疑わせる所見を認めなかった。

髄液検査では、初圧130mmH₂O、終圧105mmH₂O、Queckenstedtは陽性、細胞数は14/3、糖量は60mg/dlと正常であったが、蛋白量は210mg/dlと上昇し、グロブリン反応でPandy(+)であり、脊髓腔の閉塞所見が得られた。

ペリドログラムにて、L₃椎体中央より造影剤の上行が得られ難く、硬膜外腔での後方からの圧迫が想定された(図1-A)。次いで行った後頭下穿刺によるミエログラムでは、L₃, L₄で完全停止像を示した(図1-B)。

以上より、硬膜外腔腫瘍を疑い、手術にふみきった。

手術所見：L₃, L₄の椎弓切除を行ったが、骨には異常なく、L₃, L₄の硬膜外腔のやや左側に、縦約1.5cm、横約1.0cmの黄白色の腫瘍が存在しており、左L₄ルートを圧迫していた(図2)。腫瘍は硬膜と癒着していたため、ツッペルにて剥離したところ、途

(A) ペリドログラム: L₃ 中央より造影剤の上行が得られ難かった。

(B) ミエログラム: L₃, L₄ で完全停止像を示した。

図 1

中で腫瘍が破れ、白い膿瘍物質が流出した。

病理所見: 腫瘍は中心に凝固壊死を有し、それを Langhans 型巨細胞や異型巨細胞を混じた好酸球様類上皮細胞が取り囲み、その周囲を小リンパ球や形質細胞が取り囲んだ曲型的な結核性肉芽腫と診断された(図3)。

術後経過: 術後の結核についての検索では、ツベルクリン反応は陽性であったが、喀痰検査、胸部断層にては異常を認めなかった。

術後、腰痛および下肢の症状は、間もなく消失し、6カ月間に及ぶ抗結核剤3者併用療法を行ない、その後元気に社会復帰している。

図2 摘出された腫瘍; 縦約1.5cm, 横約1.0cmで、左 L₄ ルートを圧迫していた。

図3 病理組織標本; 中心に凝固壊死を有し、それを Langhans 型巨細胞を混じた好酸球様類上皮細胞が取り囲んでいる。(H.E.×400)

考 察

脊髄に発生する肉芽腫の鑑別疾患としては、1) 黄色ブドウ球菌、連鎖球菌、緑膿菌などの感染による肉芽腫 2) ゴム腫 3) 真菌症 4) 住血吸虫症 5) 結核腫などが考えられる¹⁷⁾。

また、下肢の麻痺を起こす脊髄結核腫を、Griffithsら⁸⁾は、以下の如く5種類示した。

- 1) Tuberculosis of the vertebrae with compression of the cord due to abscess formation, granulation tissue, or bony displacement.
- 2) Tuberculous extradural granulation tissue without evidence of tuberculous disease of bone, causing compression of the spinal cord or cauda equina.
- 3) Vascular thrombosis, due to endarteritis of the radicular arteries, producing ische-

表 1

(A) 脊髄結核腫の, 諸外国での報告例

SPINAL TUBERCULOMA	
1830: Sérre, F. R. A. et al.	
1971: Rao, S. B. et al. ¹⁶⁾	(India)*
1971: Waleszkowski, J. et al. ¹⁹⁾	(Poland)
1972: Dastur, H. M. ⁴⁾	(India)
1972: Kak, V. K. et al. ¹³⁾	(Britain)*
1974: Dinakar, I. et al. ⁶⁾	(India)
1975: Burgielski, R. et al. ²⁾	(Poland)*
1976: Chandrasoma, P. T. ³⁾	(India)
1976: Hirose & Shimazaki ¹⁰⁾	(Japan)*
1977: Tsuruta, Saito & Takeda ¹⁸⁾	(Japan)
1979: Norman, C. H. Jr. et al. ¹⁵⁾	(U.S.A.)
1981: Reichenthal, E. et al. ¹⁷⁾	(U.S.A.)*
1981: Hirasawa & Kumakura et al. ⁹⁾	(Japan)
1982: Nakamura & Takase ¹⁴⁾	(Japan)

(*: Spinal Extradural Tuberculoma)

(B) 脊髄結核腫の, 本邦での報告例

SPINAL TUBERCULOMA (JAPAN)	
1259: Iwanaga ¹¹⁾	
1967: Izumida & Ikeda ¹²⁾	
1976: Hirose & Shimazaki*	
1977: Tsuruta, Saito & Takeda	
1981: Hirasawa & Kumakura et al.	
1982: Nakamura & Takase	

(*: Spinal Extradural Tuberculoma)

mia of the spinal cord.

4) Intramedullary tuberculoma.

5) Tuberculous arachnoiditis, as a result of tuberculid meningitis causing paraplegia.

我々の症例は, 2) の骨病変を伴わない結核性肉芽組織による圧迫に相当する。

脊髄結核腫は, 諸外国では, 1830 年 Sérre により初めて報告され, 1957 年までに 171 例の報告があるが⁹⁾, 以後抗結核剤の普及により激減した。1970 年以降, 我々が知り得た症例は 13 例であり, 硬膜外腔のものは 5 例である (表 1—A)。

本邦では, 1925 年岩永永¹¹⁾ により初めて報告され, 1967 年までに 15 例, うち硬膜外腔のものは 10 例¹²⁾ であるが, それ以降, 我々が知り得た報告は 5 例であり, うち硬膜外腔のものは本症例合わせ 2 例である (表 1—B)。

当科では, 1976 年から 1982 年の間に, 以下の如き 18 例の結核性疾患を経験している。

1. Tuberculous Spondylitis
8 (C: 1, Th: 3, Th-L: 1, L: 3)
2. Tuberculous Arthritis
4 (Elbow: 1, Ster.-clav.: 1, Hip: 1, Knee: 1)
3. Tuberculous Osteomyelitis
2 (Femur: 1, Rib: 1)
4. Others (Soft part)
 - a) Tuberculous Tenosynovitis
1 (Dorsum of the Hand)
 - b) Tuberculous Lymphadenitis
1 (Axilla)
 - c) Tuberculous Abscess
1 (Distal part of the Thigh)
 - d) Tuberculoma
1 (Lumbar Epidural Space)

これらのうち 4 例のみが活動性, 他に 4 例が非活動性の肺病変の所見を呈しており, 残りの 10 例では, 全く胸部の異常を認めず, さらに, 18 例中結核菌を証明し得たのは, わずかに 2 例であった。これは近中の結核性疾患の特徴をあらわしているとも言え, 慢性炎症性疾患の診断では, 常々結核を念頭に置かねばならないと思っている。

さて, 本症例の発生因であるが, 骨羅患なく, 胸部にも異常を認めなかったため, 恐らく結核菌の気道感染ののち, 血行性に菌が企播し, たまたま硬膜外腔にひっかかり, そこで結核腫を形成したのであろうと考えている。

ま と め

比較的稀な, 硬膜外腔結核腫の治療経験を報告した。症状は, 椎弓切除下の腫瘍摘出にて消失し, これにつづく半年間の抗結核剤投与にて, 再発などを見ることなく, よく治療に反応した。

文 献

- 1) Arseni, C., Samita, D. C. T.: Intraspinal tuberculoma granuloma, Brain, 83 : 285, 1960.
- 2) Burgielski, R., Lechowski, S.: Epidural tuberculoma of the spinal canal, Gruzlica, May: 507-508, 1975.
- 3) Chandrasoma, P. T.: Intramedullary cord tuberculoma presenting glioma, Neurol In-

- dia, 24-3: 164-166, 1976.
- 4) Dastur, H. M.: A tuberculoma review with some personal experiences, *Neurol India*, 20-3: 127-131, 1972.
 - 5) Decker, H. G., Shapiro, S. W. et al.: Epidural tuberculous abscess simulating herniated lumbar intervertebral disk, *Ann. Surg.*, 149: 294-296, 1959.
 - 6) Dinakar, I.: Intramedullary tumors of spinal cord, *Indian J. cancer*, 8-4: 292-296, 1971.
 - 7) Dunn, C. R., Kelly, W. A. et al.: Spinal epidural neoplasia, *J. Neurosurg.*, 52: 47-51, 1980.
 - 8) Griffith, D. L., Seddon, H. J. et al.: *Potts paraplegia*, London: Oxford University Press, 1956.
 - 9) 平沢秀人, 態倉徹雄, et al.: 脊髓結核腫の一例. *臨床神経学*, 21-10: 845-847, 1981.
 - 10) 広瀬源二郎, 嶋崎鋼兵: 硬膜外結核腫による横断性脊髓炎の1例. *日内会誌*, 65: 299, 1976.
 - 11) 岩永仁雄: 脊髓孤立性結核腫の手術的治験. *実地医家と臨床*, 2: 839, 1925.
 - 12) 泉田重雄, 池田 彬: 脊髓腫瘍のまとめ (自家93例を中心に), *外科*, 29: 412, 1967.
 - 13) Kak, V. K.: Epidural Spinal tuberculoma presentings as "spinal tumor syndrome", *Tubercle*, 53-2: 139-142, 1972.
 - 14) 中村, 高瀬: 結核性脊髓膜炎治療後に結核腫が見い出された1例. *内科*, 49-3: 557-560, 1982.
 - 15) Norman, C. JR.: Intramedullary tuberculoma of the spinal cord, *J. NATL Med. Assoc.*, 71-3: 231-232, 1979.
 - 16) Rao, S. B., Dinakar, I. et al.: Extraosseous extradural tuberculous granuloma simulating a herniated lambar disk, *J. Neurosurg.*, 35: 488-490, 1977.
 - 17) Reichenthal, E., Cohn, M. L. et al.: Extraosseus extradural tuberculous granuloma of the cervical spine, *Surgical Neurology*, 15-3: 178-181, 1981.
 - 18) 鶴田潤介, 齊藤孝次, et al.: 極めて稀な脊髓結核腫の一治験例. *臨床神経学*, 17-11: 767, 1977.
 - 19) Walszkowski, J., Rydzewski, W.: Isolated tuberculoma in the spinal canal, *Neurol Neurochir Pol.*, Nov-Dec: 877-880, 1971.